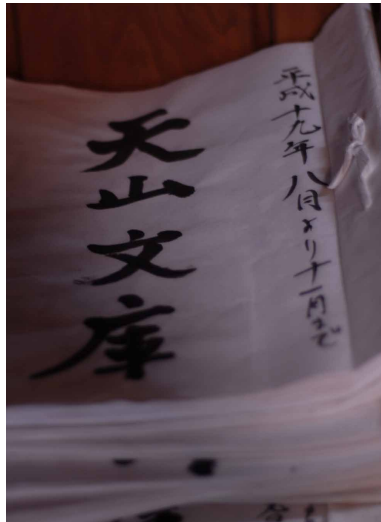




Vol.7
2015 年 3 月発行

あぶくまは、国道399号線をつながる5市町村、飯館村、浪江町津島、葛尾村、田村市都路、川内村の元気を発信する協議会です。震災で失われつつあるふるさとの味を残す活動を続けています。今回はあぶくまのいちばん南の川内村について、お届けします。



モリアオガエルは木の上に卵を産み、蛙の子は卵塊の中でオタマジャクシとなつてから、沼の中に降りていくのです。

梅雨の頃、沼の周囲の木という木には、モリアオガエルの卵塊が点々と見られるようになります。この様子が、平伏沼を天然記念物としたのです。

沼が蛙を呼び、蛙が草野心平を呼び、草野心平を慕う村人たちが、草野心平と川内村の絆を作り、今に至っています。

蛙はいつの時代でも蛙。東京から詩人がやってきて村人と酒を呑もうが、どこ吹く風です。

沼は、天候の不安定などで水が干上がりかけることがあります。近年の地震や原発事故は記憶に新しいところです。しかし沼の周囲でながあるうと、蛙のままで生き続けています。

あぶくま街道風物史

川内とカエル



事務局：〒979-1201 福島県双葉郡川内村大字上川内字八窪五〇八の2
E-Mail: info@abukuma-r.jp URL: http://abukuma-r.jp/
あぶくまロマンチック街道構想推進協議会



あぶくま ABUKUMA ROMANTIC ROAD
ロマンチック街道

平伏沼と草野心平

かえるの詩人と呼ばれた草野心平は
天山文庫という安らぎを得て
村に多くを残していった

川内村は、詩人草野心平の終の故郷でした。創建500年にもなる長福寺の住職矢内俊晃さんの再三の呼びかけに応じて、心平が村を訪れたのは昭和28年。以来、この村で酒を呑む時間は、心平の人生の貴重な時間となっています。

天山文庫ができたのは、川内村名誉村民に選ばれた返礼に心平が贈った蔵書の保管に、そして村を訪れる心平の憩いの棲家として、村人がつくりあげました。設計は建築家の山本勝巳。心平の交友関係の広さの一端です。

心平の生まれ故郷は川内村の南隣、いわき市小川町でした。しかし生前の心平は実の故郷より川内村の天山文庫をこよなく愛していました。その著作を見ると、川内村の田圃の畦には岩魚が泳いでいる驚きが綴られています。

います。清らかな水は、川内村の宝です。

心平が愛したのは、岩魚にも増して、村の人々でした。村の村長室には、心平直筆の書がかかっています。「村は人也」。村に住む人こそが、村の誇る財産であり、心平がここを訪れる原動力でした。

天山文庫には、心平と親交の厚かった名士たちの書などが多数保管されています。そんな財宝に囲まれながら、囲炉裏の前に酒を呑む。ここにすれば、心平が座り呑んだその場所で、窓の外の季節を楽しむことができます。

蛙の詩人と呼ばれた心平は、初来村の際に村のはずれの奥地にある平伏沼を訪れています。ここ平伏沼は、モリアオガエルの繁殖地として昭和16年に国の天然記念物に指定されています。